

《トピックス》

夏休み子供科学研究室



「身のまわりの細菌について調べてみよう」というテーマで、7月31日と8月1日の2日間に県内3地区の中学生が参加しました。初日は、細菌について少し説明してから実際に顕微鏡で観察してもらいました。顕微鏡の操作はみんな学校で習ったということで、比較的スムーズに観察ができました。ちょっと気持ち悪いという子供もいましたが、様々な形や色の細菌に興味を示しました。次に、手洗いの前後で、手の平を手形培地に押し当ててスタンプし、培養を行いました。2日目は、培養した手形培地を観察しました。発育コロニー(集落)について、グラム染色後、顕微鏡観察したところ、雑巾をさわった手指からはバチルス属菌などが、手洗い後の手指からは皮膚に本来住みついているブドウ球菌が主に観察できました。手洗いは外界から手指に付着した細菌を洗い流す効果のあることを確認しました。今回の研究室で、子供たちは身のまわりに存在する細菌に理解を深めてくれたものと思われます。

(細菌部 田中 大祐)

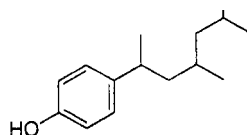
《一口メモ》

世界で初めて環境ホルモン作用が確認されたノニルフェノール

環境省は平成13年8月3日、環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)作用が疑われていたノニルフェノールが、一般環境中の濃度でもメダカの雄の精巣に、卵子のもとになる卵母細胞ができるとする報告書をまとめました。

内分泌攪乱化学物質(Endocrine Disrupting Chemicals:EDCs)は、「動物の体内に取り込まれた場合に、本来、その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質」と定義されています(1998年5月、環境庁「環境ホルモン戦略計画 SPEED '98」)。上記の環境省の報告は、厳密な実験によって特定の化学物質の環境ホルモン作用を確認した世界で初めてのものとされています。

ノニルフェノール(nonyl phenol)は、わずかに石炭酸(フェノール)臭がする高粘度の無色～淡黄色の半揮発性液体で、ベンゼン環に水酸基と炭素数9個の分枝型アルキル基であるノニル基がそれぞれ1個ずつ付いた構造をもつ有機化学物質です。主として、繊維工業や金属加工工業等で用いられる工業用洗剤や界面活性剤等の原料として、



ノニルフェノールの化学構造式の一部

処理過程で生物学的分解を受けることにより、ノニルフェノールが生成するとされています。

(がん研究部 加藤 丈士)

お 知 ら せ

第29回北陸公衆衛生学会のご案内

開催日時：平成13年11月30日(金) 10:00～17:20(予定)
 会 場：富山県民会館 304号室、401号室
 富山市新総曲輪4の18 TEL:(076)432-3111
 特別講演：13:40～15:00(予定)
 演 題 未 定
 講 師 国立感染症研究所 大山 卓昭 先生
 詳しくは、下記へお問い合わせ下さい
 事務局 富山県医務課 TEL:(076)444-3218 担当：麻生

ホームページアドレスは <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/1279.htm>

又は、富山県のホームページからもアクセスできます。

【<http://www.pref.toyama.jp>】→試験研究機関→衛生研究所】